

# 青山同窓會報

## ご挨拶

青山同窓会会長

長谷川 義明 (61回)



今年、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

今年、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

今年、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

今年、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

《発行所》

青山同窓会

〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町2-635  
新潟県立新潟高等学校内  
TEL 025-266-5268  
FAX 025-266-5268

《編集・発行人》

長谷川 義明

《印刷所》

オリオン印刷株式会社  
〒950-0963 新潟市中央区南出島1-19-1  
TEL 025-283-2151  
FAX 025-283-3804

### 平成二十一年 新年会のお知らせ

来年の新年会は平成二十一年二月二十日(金)を予定しております。詳細は次号会報に掲載いたします。

て、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

て、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

て、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

て、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

て、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

て、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

て、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。

て、この地域の発展を支える貴重な人材として大きな役割を果たしていかれることだろうと楽しみにあります。



## ◆ 青山学術文化講演会 ◆

主催：青山同窓会

今年も新潟高校卒業生で、各界でご活躍の方々から講演をして頂きます。

なかなか聞けない話ばかりと思います。ぜひこの機会に母校見学を兼ねましてお越し下さい。皆様のお越しを心からお待ちしております。

- 開催日 平成 20 年 11 月 15 日 (土) 午後 1 時 30 分～ 4 時
- 会場 県立新潟高等学校 視聴覚教室 (案内板が出ています)
- 定員 400 人 (一般市民の方々も聞いて頂きます)
- 参加費 無料
- 講演予定者

### 猪口孝さん (70 回卒)

中央大学大学院教授、新潟県立大学学長 (予定)  
演題「子供に伝えたい徳目ーアジア世論調査からみたー」  
アジア 29 カ国で世論調査を 2003 年から毎年実施していろんなことを発見します。なかでも東アジアといっても子供にうえつけた

○申込み先

青山同窓会事務局

電話・FAX 025-266-5268

E-mail niigata\_aoyama@yahoo.co.jp

い徳目の違いは目立ちます。自立、勤勉、正直は日本を除く東アジアで一様に強調されますが、日本では思いやりが断突です。

### 南場智子さん (89 回卒)

(株)ディー・エヌ・エー 代表取締役社長  
演題「株式会社ディー・エヌ・エーの歴史とモバゲータウンのサービスについて——健全性維持への取り組み」  
外資系コンサルティング会社を経て起業、1000 万人を超える会員を擁する携帯電話サイト「モバゲータウン」を運営。創業から今に至る苦労話と、サービスの健全性維持への取り組みについてお話しします。

# こんな学校に

学校長 大滝 祐幸



私は、この三月まで県教委教育  
育次長を四年間勤め、高校教育  
の改革を始めとする様々な施策

# 校長退任の挨拶

前学校長 小林 崔



三月三十一日をもって定年退  
職いたしました。  
長い歴史と伝統に押しつぶさ

れるのではないかと不安を抱え  
ながら新潟高校の玄関をまたい  
だのは四年前。目指すべき教育  
を考える暇もなく、行事をこな  
すのが精一杯という、無我夢中  
のスタートでした。爾来、必履  
修科目の未履修問題など難しい  
課題を数々クリアしながら今日  
まで、理数科二学級も定着し、  
子どもたちも健やかに、進学実

績も高どまりするなど、上々の  
四年間だったと思います。こう  
して、在任期間を大過なく全う  
できましたのも、ひとえに長谷  
川会長さまはじめ青山同窓会の  
皆さま方の、陰に陽にの、お力  
添えの賜と、心より感謝申し上  
げる次第であります。

さて、最近、しばしば「新潟  
高校の一人勝ち」ということば  
を耳にします。その新潟高校を  
新潟高校たらしめている原動力  
は、青陵祭、青山祭、スキー教  
室、柔剣道・ダンス大会、かる  
た大会等々で見せる子どもたち  
の一体感、そして、その一体感  
が創り出すエネルギーです。子

どもたち自身、応援練習を大事  
にします。「皆で創る」「大きな  
声が出る」「自信が持てる」「学  
校が楽しい」「だから成長する」  
というプラスの連鎖を良く知っ  
ています。

歌詞の意味は分からなくて良  
い。上手に歌えなくても良い。  
兎に角大きな声を出す。目を瞑  
れば、今にも聞こえてきそうな  
エール、そして「ますらお」の  
斉唱。二十年、三十年と時は過  
ぎても、身体に染みついて消え  
ない「青山の心」は、この辺り  
に原点があるのでしょうか。  
最後に、離任式での挨拶を繰  
り返し、終わりとします。

に取組んでまいりました。そ  
の中で、新潟高校が歴史と伝統  
を大切にしながら常に前進して  
いる姿を見、大変力強く感じて  
おりました。今後、本校をさら  
に発展させたいと決意していま  
す。

1 最初の職員会議で、先生方に  
お願いしたことを紹介します。  
1 新潟県を中心とする学校で  
ありたい  
すべての高校の見本となり、  
県内の幼・小・中・高・大すべ  
ての学校に有形・無形の影響力  
を与えることができる学校であ  
りたい。

2 真の一流高校でありたい  
生徒にノブレス・オブリー  
ジュを身に付けさせる学校、生  
徒の持っている力を伸ばすこと  
ができる学校でありたい。  
3 学力と体力と気力を身につ  
ける学校でありたい  
すべての生徒に、青年期に必  
要な体力を身につけさせるとと  
もに、全員が納得できる進学先  
を保証する学校でありたい。

4 当たり前前のできる生  
徒を育てたい  
私が考える「よい生徒」とは  
次のとおりです。  
遅刻しないで学校に来て、授  
業中一生懸命勉強し、自分の  
使った所をきちんと掃除する。  
そして、たまにでいいから人に  
喜ばれることをする。他はみん  
なおまけだが、おまけは大きい  
方がいい。  
5 組織で動く学校でありたい  
学校が達成すべき目標に対し  
て、教職員全員の持っている力  
量を十分に引き出す組織であり  
たい。

この生意気な前途ある若者た  
ちが、二十年後、三十年後にど  
のようにこの国を支えていつて  
くれるのか楽しみです。



最後となりますが、このすば  
らしい後輩が大きく育つよう、  
皆様にご助力いただくことをお  
願いして、挨拶とさせていただきます。

# 心の鏡

PTA 会長 大野 茂 (85 回)



四十才を越えた頃からよく温泉めぐりをするようになりまし

事です。皆さんも経験がおありでしょう、いかにも根性が曲がった、性格の悪さ、卑しさが表情に出てくるという人を世間で見かける事が。

た。泉質が気に入ってよく訪れるのが、新潟市から車で1時間程度の山村に入ったところで。そこは町の福祉政策で地元在住の六十五才以上は入浴料が無料である為か、お客は地元農家の常連のお年寄り達ばかりで、まるで見知らぬ敬老会の寄り合いに参加したかの如き入浴となり。そこでは、全くのよそ者の私に対し、まるで同じ部落の仲間に対するのと変わらない挨拶をしてくれる好々爺も居れば、ジロジロと詮索をするが如き視線を投げかけてくるだけの老人、さらには苦虫を噛み潰したかのような顔で一瞥さえ無い年寄りと、様々な「顔」に出会います。

何故でしょうか？怒りや卑しさや意地悪な気持ちを何度も何度も繰り返し持ち続けると、その表情を作り出す顔の筋肉がその様に慣れ、年齢とともに硬化すると言われています。顔の筋肉の動きにクセがつき、時にはシワとして顔に刻み込まれて行くのだそうです。表情即ち「顔」は、まさにその人の生き方、心の姿勢を表す器官に他なりません。「顔」はその人の心を写し出す鏡といわれる所以です。

そこでいつも感じさせられる事が、人の性格や心の姿勢が年齢とともに顔に出て来るという

「顔」でありたいと思います。

平成 20 年  
青山同窓会新年会  
報告  
渋谷 聡 (88 回)



恒例の青山同窓会新年会が、二月十五日に新潟グラウンドホテルで開催されました。当初の申込者だけで百十六名、更に当日多数の方がおいでになり、大盛況となりました。

今回、90 回卒以降の若い方が十九人も参加されました。特に司会を買って出てくれた 90 回卒の田邊裕美さんには、「大変お

疲れ様でした」と申し上げたいと思えます。

初めに長谷川会長が挨拶で、昨年の青山学術文化講演会についてお話しされました。次に猪又斉新潟高校教頭は、生徒の久須美智子さんが昨年の「全日本高校大学生書道展」にて「大賞」を受賞したこと、遠藤理紗さんが「全国高等学校総合体育大会」で「女子個人エベ」で優勝したことなど、本校の活躍ぶりをご紹介されました。

その後、38 回卒の近藤圓先輩のご発声で乾杯をしました。各テーブルには 94 回卒本多孝さん

が彼のワイナリー「フェルミエ」(新潟市越前浜)で丹精込めて作られたワインも並べられ楽しいひと時をすごしました。

お忙しい中、駆け付けてくれた吉田代議士(66 回)は、最近国の仕事で 89 回卒の南場智子さん(ディー・エヌ・エー社長)に協力いただいていますとお話しされました。折しも、その日の同窓会役員会で、南場さん今年の青山学術文化講演会にお呼びしたいと話していたところでした。生徒の活躍とともに O B の活躍ぶりをも身近に感じる日となりました。

## 東京青山同窓会二〇〇八 新人歓迎会・講演会

現職員 横堀 真弓 (91 回)

平成二十年六月二十日(金) ANA インターコンチネンタル ホテル東京において東京青山同窓会新人歓迎会が開催されました。当日は今春卒業した第 116 回生のうち十七名が、三ヶ月前と変わらないよういてどこか引き締まった表情を見せてくれました。新潟からは篠田昭市長(75 回)、風間士郎青山同窓会副会長(64 回)、渡辺国夫同監事(72 回)よりご出席いただき、学校からは卒業担任の江川

直人、泉田保 校内幹事横堀が参りました。総勢百名という盛會となり、新潟への応援と新人歓迎のお言葉をいただいた栗林貞一東京青山同窓会会長(59 回)をはじめ、多くの諸先輩方が新人たちをあたたく迎えてくださいましたことを心より感謝いたします。

第一部では、来年の NHK 大河ドラマとなる「天地人」の著者火坂雅志氏(83 回)より「戦国名将の武士道」上杉謙信と



直江兼続」のご講演をいただきました。新潟の生んだ素晴らしい武将たちが実践した「愛」と「義」に関するお話は、今の時代だからこそ求められる生き方の指針として深く新人達の胸に刻まれたことと思います。また謙信に学んだ兼続のように、新人達が先輩方から貴重な教えをいただきながら社会に有用な人材として成長していくことを願いながら拝聴しました。

新人コールの後、「先輩達に近づけるようがんばります。」と真島徹也くんが決意を述べてから、第二部の懇親会が始まりました。緊張も徐々に解け、大先輩とテーブルを囲み、大学のこと、社会の話など談笑の輪が広がっていました。この出会いを今後に繋げるべく、山路善貴くんの合図にて校歌斉唱、真島徹也くん、大矢光くん、池田太陽くんのリードによる応援歌唱で心を一つにしたのち、閉会となりました。

同窓生訪問

今年は八月・北京でオリンピックが開催されます。スポーツ界最大であり最高の舞台に、わが青山からお二人が参加されています。今回はそのお二人を訪問いたしました。

飯塚 実さん (59回) を

訪ねて



ホテルオークラにて

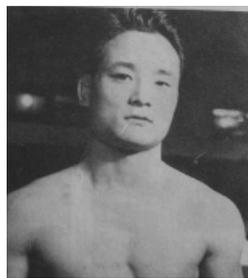
新潟県レスリング協会前会長の飯塚さんにお話を聞きに行ってきました。  
一九五六(昭和三十一年)、オリンピックのメルボルン大会にレスリングバンタム級日本代表として出場し、金メダル確実、と言われたのですが、現地で試合二日前の練習中に怪我で足を麻酔注射を打ち、添え木で足を固定して出場されたそうです。「出場するにはどうすれば

良いかだけ考えた。」という執念が実り、五位の成績を収められました。このような状況で臨んだオリンピック、色々な思いはあったのでしょうか、「欠場せずに試合に出たことで、私のレスリング人生には悔いが残らなかった。」とお話し下さいました。

今のスポーツ選手は羨ましい、と言う程、当時は背景も違っていたそうです。いったん大学を卒業すると、スポーツを続ける暇が無くなり、仕事優先のため引退せざるを得ない世の中でした。その中で、明治大学卒業後にオリンピック出場、アジア大会優勝二回(昭和二十九、三十三年)と輝かしい成績を残したのは並大抵の努力ではなかったに違いありません。飯塚さんの職場でも当時、選手を優遇する制度はなく、試

合の為の合宿・遠征は欠勤だったそうです。

高校時代に話を戻します。昭和二十一年に旧制中学に入学し、新制新潟高校を卒業するまでの六年間在学しました。その間に終戦を迎えた戦中派です。部活動は剣道部、戦後は水泳部に入学し、水泳では平泳ぎで県内二、三位の活躍でした。高校二年の時にレスリング部が出来ました。子供時代は友人たちと取っ組み合いの遊びを楽しんでおり、これで体力も精神も鍛えられていたとおっしゃる飯塚さんには、レスリングという競技にものすごく魅力を感じたそうです。



五輪出場当時の飯塚さん

案の定、あつという間に頭角をあらわし、入部二、三ヶ月後の国体に出場し、その後は六、七年間全日本クラスのトップレスラーとして活躍され、先に述べたような素晴らしい成績を収められています。

選手時代は、招待試合で当時の旧ソ連へ遠征に行つて、国賓並みのもてなしを受けたことな

ど、遠征先の文化等に触れることができ、試合以外でもいい思い出がたくさん出来たそうです。

引退後は新潟に戻つて来られて、仕事以外の時間はレスリングの指導に当たり、新潟のレスリングの黄金時代を築くのに大変貢献して下さいました。最近飯塚さんが思うことは、「ジ

原 正雄さん (62回) を

訪ねて

慶応大学エイトクルーはオリンピック出場をかけた最終レース、京都大学クルーを一尺の差で破り、(これが近年ようやく水解した京都大学ボート部との五十一年間に渡るわだかまりになるのですが)一九五六(昭和三十一年)年にメルボルン大会に出場いたしました。

パワーで漕ぐ外国勢とは違う、ロスの出ない無駄の無いこぎ方を目指した慶応大学クルーは準決勝に進みました。ゴール側から吹く風と大きな波の悪コンディションの中、五位、八位以内の成績を収められました。大学からボートを始められた原さんですが、きっかけは高校時代にあったという事です。当時、クラス対抗の運動会という

ムのマシンを使ったウェイトトレーニングに偏る鍛え方はよくない。動きがあるところで鍛えた筋肉は相手のあるスポーツに強い。相手の反応を肌で感じる事が大切。そして、力に頼るレスラーは大成しない。」  
いいお話を伺ったのに、新潟高校にレスリング部が無くなったのは寂しい限りです。

ものがあり、原さんはA組代表でボートの試合に出て優勝しました。この経験から、大学入学後の体育実技ではボートを選び、そこでボートを漕ぐときのスピード感にとても魅せられ入

ご自宅での原さん



五輪出場を決めたときの原さん。(中央の鉢巻姿が原さん)

部しました。  
そして、二年後の三年生でオリンピック出場という素晴らしい経緯ですが、一回の練習で三キロも痩せる程の猛練習だったそうです。今思い返すと、当時はひたすら漕ぐのに夢中で、ボートに関する事以外は全く気に掛けるゆとりもなかったという事です。

以降の原さんの人生は大半をボートが占めているとおっしゃるほどでして、オリンピック当時の写真や映像等の資料の収集はもちろん、新潟県ボート協会の会長としてご尽力下さっています。このように永くボートに携わってきたことで、当時は分からなかった事など新たな発見もあるとおっしゃっています。今回、お伺いしました原さんの

### 教育実習に参加して

ご自宅は新潟市街を一望に見渡せる大正十二年に建てられた由緒あるお宅ですが、廊下やお部屋に飾られたボートの写真や、結婚記念に仲間で作られたボートのレプリカなど思いが伝わってくるようでした。

六年前、メルボルンで「ワイルドマスターズ」というスポーツイベントが開催され、当時オリンピックに出場した各国クルーに招待状が届き、原さん達エイトクルーの仲間も五十年以上ぶりに彼の地でボートを漕いで

できたそうです。そして記念に桜の木を八本寄贈してきたのですが、その思い出の湖が近年の温暖化で干上がったしまった写真が昨年新聞に掲載されました。「十年後の二〇二二年にクルーのメンバー全員で湖に行く約束をしている。」との事。生き方や考え方は人それぞれ違いますがお互いを尊重し、友達を大切に行っている原さんとクルーの仲間がまた再び水のある湖でボートが漕げることを祈念いたします。

今回訪問した飯塚さんと原さんは、一番目のお子様は東京オリンピックの年に、二番目のお子様はその四年後に誕生と、こちらでもオリンピックにちなんでおりまして、また、ゴルフ仲間でもあり家族ぐるみのお付き合いもしておられるそうです。当時のオリンピックに関する貴重なお話を聞かせ下さってありがとうございました。

会報編集委員  
石井 智 裕(79回)  
坂井 奈津子(96回)

### 和田 裕輝(113回)

新潟高校での教育実習も一週間が経ち、実習期間の半分を終えました。もう一週間後には青陵祭を控えています。すでに何度か授業をやらせていただく機会がありました。実際に教える立場になってみるとうまくいかないことが多く、戸惑うばかりです。十分に準備をしたつもりでも、生徒を前にすると平常心を保っているだけで神経を使ってしまう、なかなか思うように授業を展開できないことがありました。

多くの指導を受けました。声の小さい、板書の字が小さいなど人の前で話す時の根本的な事さえ、注意されるまで気付いていませんでした。先生方はそれだけで準備をし、授業に取り組んでおられるのだと思うと、高校当時真剣に授業に参加していなかったことを申し訳なく思います。

授業に対して指導を受けたことの一つに、その時間でのテーマが明確にされていないというものがありました。どこをおさえ、理解してほしいかが伝わらないと言われ、その次からは伝えたい内容を明らかにした授業案作りを意識し、実際に生徒には、その点は伝わったように

思います。しかしまた、次々に課題が表面化してきます。今度ハムダが多い、つまり必要な説明とそうでない箇所とのメリハリがないとのことでした。先生方の授業を参観することにより、メリハリのつけ方が少しはわかってきました。それを後半の授業で活かせるように計画を立て、少しでも先生方に近づきたいと思えます。

指導される点は多々ありますが、その中で褒めていただけの部分の一つでも増やしていけるよう、毎日の反省からの教材研究を一層しっかりとやって授業に臨みたいと思えます。この実習で一つでも多くを学び、二週間が実りあるものにするため、これからの一日一日を今ままで以上

### 大西 麻衣(113回)

卒業してから四年の月日を経た今年、三週間にわたり再び新潟高校で過ごす機会を得ました。四年前と違うのは、立場が教育実習生であるという点です。

保健科の教員免許を取得するために、新潟高校に実習を申し込みました。保健科、というと保健体育科ではないのか、とよく指摘されますが、保健科だけの免許も存在します。私は現在千葉大学教育学部養護教諭養成課程に在籍し、養護教諭になることを志しています。

上に真剣に取り組んでいきたいと思えます。

この実習期間には運動部の部活動で三年間の引退がかかった県総体と、新潟高校で最も盛り上がる行事である青陵祭があります。どちらも主役となる三年生が中心となって、校内の雰囲気

気は、日々高まっています。生徒であったときには気づかなかった先生方の協力や配慮がわかり、学校全体をあげて作り上げていく行事であることを知りました。

卒業後に、これらの行事に参加できるとは思っていなかったのですが、生徒たちの様子を見てみると、自然と自分の記憶と重ね、懐かしい気分になります。今の生徒にもいい思い出として残る行事になって欲しいと強く思います。

実習も残りわずかな日数となりましたが、一日一日を大切に、新潟高校でしか学べないことをたくさん持ち帰りたいと思います。

2008 青陵祭



2008 青陵祭

同 期 会 報 告

青山56期生  
卒業六十周年記念大会

江口 直禎 (56回)



三十九人と参加者は減っているが、東京近辺から六人も参加してくれた。大いに感謝している。既に他界した者一〇五名、現在県外に九三名、県内に百七名、計二百名の構成である。

十年前に比べると他界者倍増している。

仲間の中で特異なる存在としてドイツのフランクフルト大の眼科の元教授で今春ドイツ国から勲章をもらった真壁祿郎

昨年喜寿を迎え益々意気盛んと言いたいところだが、典型的な後期高齢者の一員である。  
本年は卒業以来丁度六十年、教員グループが幹事役として新潟駅前のホテル東急インで去る五月二十四日(土)夕方同期会を実施した。二十年前は百人、十年前は五十四人、今回は



君、アメリカの五大湖近辺に住み、医学の研究所で活躍していた伊藤道夫君(兄は北方文化博物館の伊藤文吉氏)共に独、米に帰化し外国生活を送っている。他に各界で活躍していた仲間の一部を紹介する。

増田祐孝君、昭和産業社長の白勢陽一君。

医学会では元新潟大学医学部長の柴田昭君、元米国の国立癌研で免疫学研究室の部長を勤め研究生の指導をした青木忠夫

青山六十一回同期会  
『卒業五十五周年、湯田上に集う』

齋藤 義明 (61回)

君、ドイツ文学界では元関西医科大学教授坂井洲二君、元東工大教授平井正君。

県庁では元出納帳笠原健一君、元総務部長の有磯邦男君(故人)等があげられる。

新潟では毎月第三水曜日、生粋別館で定例会を実施、十月には真壁君が帰国する話もあり、十月十五日(水)十八時に参加してもらい旧交を暖めたい。東京からも参加をほめかしている者もある。

今年卒業五十五周年記念に当たり、皆様にご案内を差し上げた処、体調不良の方や、未だ現役で忙しく活躍中の為欠席された方々等で、残念ながら前回五十周年に比べて約六〇%の出席者と少々淋しい感じとなりました。

お元気な大橋先生のご出席を戴き、平成二十年六月五日、総勢四十三名が護摩堂山の紫陽花で有名な湯田上温泉『ホテル小柳』に於いて盛大に開かれまし

全員で記念写真撮影後、開会冒頭、今回急逝された高橋昭君、小林稔君、昨年亡くなられた磯野啓君、加藤邦雄君、風間徹治君、結城隆一君の六君を初め五十七名の物故者の方々に黙祷を捧げた後、江口良助幹事の開会のことば、続いて新旧校歌の斉唱となり、長谷川義明君の力強い開会の挨拶のあと、大橋禎助先生のお元氣なご挨拶と近況報告の後、先生の乾杯の音頭で懇親会がスタートしました。五年ぶりの再会で、参加者一同



歓談で大いに盛り上がり、時の過ぎるのを忘れる想いでした。その後江口良助幹事より、皆さんの体調がそろそろ心配される状況なので、次回を五年後の六十周年記念同期会とするか、もっと間隔を縮めて同期会を開催するか今後検討して行きたいとの話がありました。

来年の東京青山61回同期会は、藤田太郎幹事の元で、計画される事となりました。

最後に全員で青春の思い出の詰まった応援歌の力強い大合唱で締め、長橋徳衛君の閉会のことばでお開きとなりました。

翌日朝食後、生憎小雨がばら

つく中ゴルフ班と新潟駅に直行する班に分かれ、次回の再会を約して、流れ解散となりました。

六十一回同期会  
記念ゴルフ大会  
加藤 榮一 (61回)

明け方まで降雨で心配していた六月六日(金)の「湯田上C」は、一同の情熱でプレー開始時に雨は止み、曇りで極微風かつ気温二〇℃程の絶好のゴルフ日和になりました。

今回の参加者は五年前より半減の十四名でしたが、精鋭の白熱したプレーを「紫陽花」・「信濃川」の十八ホールで展開しました。

競技は新ペリアのダブルカット方式で、全員七十三歳以上なれど一般のレギュラー・ティ(白マーク)を使用して行い、グロス99、ネット71・8の池田元嘉君が優勝し、ベストグロス賞とロウハンディ賞は長谷川義明君がグロス93、ハンディ16で見事に獲得し、故障者は無く、卒業五十五周年の元氣澀刺の楽しい思い出を作ることが出来ました。

参加した精鋭は安宅久憲・池田元嘉・大橋恒夫・加藤

榮一・風間博・木村昇・佐藤敏夫・竹尾昇・鶴巻正義・中村龍雄・長谷川義明・藤田太郎・湊秀平・村山健君の計十四名で、異句同

## 青山第86期同期会・卒業三十年集い

86期代表幹事 渡辺 政次

昭和五十三年に卒業した、私たち86期生の卒業三十年を記念した第二回同期会を、一月五日(土)に新潟グラウンドホテルにおいて開催しました。

今回も恩師である、小田和彦先生、奈良孝基先生、小泉英雄先生、柴野章一郎先生、入田年夫先生、上村長生先生、山岸達郎先生、池田齊先生、渡辺精也



音に次回六十周年への情熱溢れる抱負を話し合い、和気あいあいの懇親を深めました。

先生、九名の先生にご出席頂きました。短時間でありましたが、おひとりずつ壇上で三十年前と変わらない個性のかつ温蓄のあるお話もして頂き、本当に感謝しております。

会は、全員で記念撮影の後、奈良先生の乾杯のご発声で始まりました。始めれば、ホテルで用意された料理にほとんど手を付ける間もなく、久しぶりに再会した友人と旧交を温め楽しい時間を過ごし、気がつくとお開きの時間となり、一次会はお決まりの「丈夫」でめで終了しました。その後は同ホテル内での二次会に、ほぼそのままの人数で移動し更に盛り上がり有意義なひと時を過ごすことが出来ました。

まだまだ若いと思っても五十歳を目前にしている私たちは、仕事でも家庭でも大変な時期に差し掛かっています。そんな時期に同期が集まりそれぞれ

が頑張っている姿を見て、なにかいっばい元氣と勇氣をもらいました。やっぱり仲間はいいいものです。

第一回同期会を、入学三十年を記念して平成十七年八月に開催し、第一回と第二回の間隔が短かった事。都合で午後一時からの開催となった事。正月明けで仕事始めの翌日だった事などの諸条件が重なり、案内の発送後、締切日が過ぎても出席者の連絡がなかなか増えず心配をし

## 第二十五回青山ゴルフ会 第79回卒団体戦優勝報告記

吉田 至夫 (79回)

伝統ある青山ゴルフ会の栄えある各期対抗団体戦に、わが79回チームが悲願の初優勝を勝ち取ることができました。ここに参加各位の皆様にお礼申し上げますとともに、名誉ある報告記を執筆させていただきます。

第二十五回を数える青山ゴルフ会は、五月二十五日名門紫雲ゴルフクラブで開催されました。あいにくの雨交じりの天候でしたが、会長の上村先輩(50回)、いつもお元氣な本田先輩(49回)を先頭に総勢四十二名が日ごろ鍛えた腕を振るったのであります。「結果報告」

ましたが、一番苦労してもらった中川加代子さん・軽妙な司会進行をしてくれた小野島恵次君をはじめ、幹事の方々の努力もあり当日は大盛会となりました。

最後に出席頂いた恩師の先生方、同期生の皆様、本当にありがとうございました。五年後の第三回同期会で元氣に再会しましょう。「遠く離れていても、青山の絆は永遠です！」

\*個人戦

優勝 第61回 木村 昇氏

ベスグロ ネット 74・2

優勝 第59回 飯村 康二氏

ベスグロ ネット合計225・8

\*団体戦

優勝 第79回

わが79回卒チームは、第十五回の初出場から第二十三回の準優勝を経て、今回念願の初優勝を目指して万全の体制で臨んだのであります。なんとと言っても八名の参加人数。「量は質を凌

## 通信制コーナー

駕する「多勢に無勢」であります。貢献著しいのは、紫雲でプレイする回数で他を圧する神林君、労働運動が筋トレにも役立つ江花君、動物愛護は芝にも強い西山君、参加数増加の立役者近藤君か。

最後にわがチームのメンバー全員の名を記し報告記を終了します。 神林裕、江花和郎、西山栄一、関川寿郎、山本純司、吉田至夫、近藤浩平、佐藤久一

## 通信制五十八年の歴史

長浜 隆道 (30回)



混乱・制度だけは確立したのに、その裏づけもなく教科書や学習書は勿論のこと、教材用使用する紙一枚さえもない、まさに前途多難のスタートだったと聞きしました。

新憲法の下、教育の機会均等の理念に基づき、昭和二十三年三月に、新潟高等学校に通信教育部が開設されました。開講はしたものの終戦直後の

あり、高校卒業資格が与えられなかった。日本経済もどんでん教育の大切さは認識していても、進歩することはなかった。昭和三十年に漸く通信教育の課程においても卒業が認められることとなりました。昭和三十四年に初めて卒業生二名が誕生されました。それ以来、皆が卒業という具体的な目標に向けて、希望にあふれ学びに挑戦された結果、卒業生の数も年々増加し、現在も広く各界・各分野の第一線で活躍しておられます。

## O B 会 報 告

昭和も後半に入り、高校進学率も90%時代となり、教育課程は画一化から多様化に向けて大きく見直され、必修教科から選択履修に改められました。平成に入りこれまで経験したことのない、新たに深刻な難題に次々直面し、荒れる学校、校内暴力、不登校等で高校中退者が増加し、教育の危機的状況が表われ、通信制高校の存在が大きくクローズアップされ始めました。入学者の多数を占めていた勤労青年や中高年者から、若年化へと変化しつつ卒業資格を取るだけの目的で、学力試験もない、毎日登校することもない通信制が選ばれ始め、学校行事や生徒会行事にも消極的で、参加者も協力者も少なかった。

そんな最中の、平成十四年三月十二日に「県教育委員会」より、突然飛びこんで参りました。二ユースが「中長期高校再編整備計画骨子案」なるものでした。大胆な基本計画であり議案として秋の県議会に提案されるという内容でした。その内容は、平成十六年度に「黒埼と船江を統合し、黒埼の校舎を利用して単位制高校の設置を検討（新潟高校通信制を吸収）」というものでした。

同窓会として、学校当局より情報等をお聞きし、役員・幹事を重ねてきました。あまりにも急激な改革であり驚いたところでしたが、県側の方針は固く

その計画に沿って実施されると思わざるを得ない状況でありました。

こうして昭和二十三年に開設された「新潟高校通信制」も五十八年の幕を閉じることとなりました。消えゆく学舎からの卒業総数は五千六十四名、万感の思い出いっばいでありました。

閉課程を迎えるにあたり、学校当局と閉課程記念事業実行委員会を立ち上げ母校通信制の閉課にふさわしい事業として、平成十七年十一月十二日小春日和の良き日に、関係者各位の御臨席をいただき本校視聴覚室で式典を、正面中庭で「百里流れて

### 青山艇友会定時総会開催

渡辺 研二 (75回)

と題する記念石碑を設置するなど閉課程記念事業を挙行させていただきますました。

教育の機会均等の理念の元、充足した学舎の歴史も、こうして平成十七年度末の最後の卒業生をもって幕となりました。

学校関係者を初め青山同窓会長谷川会長、役員、幹事の皆々様より御理解、御支援に對しまして心より感謝申し上げます、お礼の言葉と致します。

我々通信制部会はこの先も、青山同窓会の会則の元、同窓会が発展し続けられるよう頑張つて参ります。

ありがとうございました。

閉課程を迎えるにあたり、学校当局と閉課程記念事業実行委員会を立ち上げ母校通信制の閉課にふさわしい事業として、平成十七年十一月十二日小春日和の良き日に、関係者各位の御臨席をいただき本校視聴覚室で式典を、正面中庭で「百里流れて

とあわせて総勢二十名。当日風邪でダウンの欠席者が発生したが、久しぶりに出席者が二十名に到達した。

佐藤勝弘(65) 青山艇友会 長を議長として議案審議をすすめ、今年もOBだけの活動でなく母校サポート支援もすることが確認された。懇親会は部屋と人数がマッチし大いに盛り上がり、校歌と「ますらお」でお開きとなった。

当日、二週間後の全国高校選抜大会(女子ダブルスカル、静岡県天竜ボート場) 出場にあたり、選手の健闘を祈念し顧問に激励金を手渡した。顧問からは部活動の現況・大会成績、新潟国体との関係等の報告があった。

出席者二十名

長谷川義明(同窓会長)、原正雄(県ボート協会展長)、小林勝也(教頭)、大平和之(顧問)、児玉悟(同)、西倉直樹(同)、高野大(元顧問)、加藤高弘



▽OBの好意による浄財で女子ダブルスカル艇を購入。艇庫到着は平成十九年四月十二日(木)。艇名は「夕陽」(ゆうよう)。

いいタイミングで艇が配備され、現役の練習や自艇参加の大会でも有効に活用しているようだ。また競技で実績も残しているのが喜ばしい。

体操の歴史は古い。第一回オリンピック大会(一八九六年明治二十九年)には正式種目としてのついている。その前は十四世紀から十六世紀にかけて原型と

▽OB現役懇親会を平成十九年七月十五日(日)に実施。参加者は総勢二十名。OBは艇庫に集合し、新たに配備されたダブルスカル艇を確認。その後近くの食事処で、昼食と歓談。現役の語つたうまい表現「勝つことは競漕相手が視野に入る」とや卒業後は現役のために支援したい等の話を聞くことができた。昼食懇親会は大変に有意義と感じている。

▽今年三月、女子が全国高校選抜大会にダブルスカル種目(静岡県天竜ボート場・距離二千メートル)で初出場し、八位に入賞した。練習と努力の賜物で、OB支援に伝えてくれたものと喜んでいいる。この情報は速やかにOB会員に報告された。

### 体操の歴史

中川 弘 (58回)

して、ヨーロッパにおいて発生したと言われている。日本には明治二十三年にドイツの軍人が器械を使った体操を始めて紹介したといわれている。昭和五年に日本体操連盟が呱呱の声をあげた。

すなわち日本の体操は昭和に入ってからのものである。昭和七年に当時の小学校教員だった堀保利氏、樋口政忠氏（両氏とも34回昭和二年卒）中学校教員の鷲尾吉光氏の三名が遙々十時間の汽車にゆられ第三回全日本選手権大会に出場したのである。三氏の成績は期待されたほどではなかったが、初めて中央の空気にふれ、直接体験した試合の方法、競技のルール、各種器械の運動や技術等すべて目新しく食欲に吸収したことは大きな収穫であった。

昭和八年に、その経験をもとに第一回県下選手権大会が開かれることになる。樋口・堀の両氏は体操競技が特に幼少の頃からの訓練が大切なことに着目し、その頃、大谷武一氏を中心として発案された低鉄棒運動にとりくみ、休みを利用して上京した。この時の東京の宿舎が、当時、文部省体育研究所にいた近藤圓氏（38回昭和六年卒）の下宿である。その運動方法は勿論、設計・施行まで身につけて持ち帰り、新潟市内に止まらず、広く県内の小学校に低鉄棒を普及した。それがやがて体操競技として開化していくのである。これについては青山同窓会報83号に低鉄棒の話として掲載した。新潟の体操はこの様に新渥中学より始まったことに後輩として、大きな誇りをもつ。先輩の多くはもうとうにこの世にはいない。ご冥福を祈るのみである。伝統ある体操部の精神は脈脈とうけつがれ、青山体友会として続いている。今年も十月に開く予定である。

## 平成二十年度 青山野球倶楽部総会兼 新入会員歓迎会

事務局 白井 行雄 (79回)

三月十八日(火) 十八時三十分より、恒例の総会兼新入会員歓迎会が、田中健一氏(105回)

部長、倉繁正志監督、OB会員二十名、新入会員十三名の総勢三十五名でした。

湯浅会長の挨拶の後、平成十九年度の活動が報告されました。第四十二回青山野球倶楽部ゴルフコンペは小沢謙一氏(93回)、第四十三回は湯浅一平会長(63回)の優勝に終わったこと、八月十五日の第三十一回青山葦原定期戦(硬式野球)は、現役戦が八対八の引き分、OB戦は惜敗、ホンマ健康ランドで行なわれた懇親会では青山十三名、葦原十五名の出席で、毎年人数が増えてきたこと、第

三十二回県高校野球OB大会の二回戦進出等でした。

平成二十年度事業計画案について審議が行われ、第三十三回県高校OB野球大会(八月十二日、十四日 鳥屋野球場)に今年も参加、八月十五日(金)に第三十二回青山葦原定期戦を小針球場で実施することとしました。硬式ボールを握ってプレーのできるこの両大会に、多くの会員が参加しますようよろしくお願いしたいと思います。その他、七月五日(土)に第四十四回青山野球倶楽部ゴルフコンペ(ノールウッドGC)、十一月一日(土)に第四十五回(日本海CC)を計画しました。



会則にある『会員相互の親睦を図る』ばかりではなく、『母校新渥高校野球部の強化・発展を計る』事業として、七月七日(月)十七時三十分から夏の大会を目前にひかえた現役選手の激励会を計画しました。平成二十年度予算案では、母校助成費十万円、支援基金六十万円とし、悲願の甲子園出場を支援していくこととしました。

新入生歓迎会では、先輩会員全員から新入会員にエールが送られました。58回卒は三名の出席、本間庄二先輩からは、『母校が創立一六六年といふことだが、私達三人は丁度そのお返し点の卒業です。こんなに元気にやってこられたのも野球のおかげです。是非野球をプレーし続けてください。』と

激励の言葉が贈られました。「現役時代に受けた先輩方の物心両面の支援に感謝いたします。これからは青山野球倶楽部と現役選手を支えたいと思います。」という、梅川純一主将をはじめとする新会員の決意が述べられた後、全員で「丈夫」を歌い、散会しました。

### 友情と思い出づくり

#### 青山バスケットボールクラブ

会長 和澄 孝男 (83回)

スポーツが生活の中に着実に定着してきている時代になっている。しかも、より専門性を加えながら低年齢化している。社会体育の広がり、多くのボランティアの活躍を支えにあらゆる競技に及んでいるのだ。豊かな時代を反映しているのだろう。青山バスケットボールクラブの後輩たち・・・現役プレーヤーもまさにこの時代の申し子たちである。

過日、五月の土曜の夜に現役部員の父母会の開催を案内され、その席に初めて参加した。数名の特別に熱い父母たちと顧問の先生のプライベートな集まりなのだろうと軽い気持ちで駆けつけてみると、なんと三十名を超える団体の大宴会の様相に驚いた。夫婦で参加している家族もいた。かつての我々の父母たちは、高校生の部活動にこれ程の熱意と興味を示していたのだろうか。今の時代の親子家族と我が子の部活動との関わりにあらためて驚かされた思いがした。小学校のミニバスの時からわが子のスポーツ活動に毎週いや毎日の送り迎えなどで寄り添い、試合ではまさに「追っかけ」の如く付き添ってきた父母たちの姿が容易に想像できた。恵まれた環境で育った子供たちというほかにないであろう。

盃が進むにつれ父母たちと打ち解けた話をするうちに、我が子の部活動を通して、実は親子同士が友達づくりをしてその付き合いを楽しんでいる実態が

明らかになつてきた。そして、その行動は、我が子の成長を見守ることに止まらず、親自身の人生における多くの思い出づくりに貢献しているようなのだ。コートの外でも多くの友情を醸成させているのは、スポーツが持つすばらしさゆえであろう。さて、現役たちは、今年も青陵健児の「文武両道の精神」の下、男女とも見事な活躍をしてきている。まもなく始まる県総合体育大会でも、ボールに執

## 青山バドミントンクラブ (活動報告)

橋詰 史則 (98回)

平成十九年十月二十一日に、青山バドミントンクラブ主催で、恒例のバーベキュー大会を開催しました。この行事は、バドミントン部OBと現役生、顧問の先生との交流を深めるため、毎年やすらぎ堤昭和大橋のもとで行っているもので、同クラブの活動の中でも主要な行事の一つとなっております。例年九月に行つておりますが、今回は諸事情により初秋の時期の開催となりました。

向かいました。しばらくたつといつものOBメンバーが揃い始め、道具や食材の搬出をしておきます。現役生に楽しんでほしいというOBの思いが通じたのか幸い雨脚も弱まり、午後の開催に向け準備を始めることができました。例年なら夏の暑い日差しの中、ちよつとフライングしてプシュッと開けたりしながらセッティングを行うわけですが、今回はおとなしく、少し場所をずらして橋の下で雨に濡れないよう準備しました。用意が大体整ったころ、現役生たちが到着し、無事開催と



なりました。北村会長、宮川前会長をはじめとする重鎮OBの方々も来てくださり、総勢四十二人で、始まつてみれば例年通りにぎやかに皆で楽しむことができました。私の鉄板上でのラケットならぬへらさばきも年々上達し、できた焼きそばは小杉先輩や現役生に好評でした。地元の蒲原祭に子供の頃から毎年通つたお陰かしら。現役の頃にこれくらい褒めてもらいたかったです。小杉先輩！私は卒業してからも十数年経ちますが、今でもOBとして参加させてもらえるのは何よりの喜びであり、現役の頃には想像できないことでした。毎年バーベキューに参加するとき、ここにいる現役生たちが大学を卒業し、また新潟に戻ってきてくれるときに、今度はOBとして後

輩たちと交流を深め、OB会を盛り上げていってほしいといつも考えます。まるで放流した鮭が帰ってきてくれるのを待つよ様な大変お疲れ様でした。

## 剣道部OB会の活動報告

青山剣友会

事務局代表 町田 一越 (95回)

平成十九年度の活動結果をご報告致します。

一・平成十九年度総会

平成十九年八月十一日(土)午後五時からイタリア軒で開催されました。今回は、任期満了に伴う役員(会計監査・会計・事務局代表)改選を行いました。新会計監査には松本一志氏(94回)、会計・事務局代表はそれぞれ留任で小柳貴裕氏(99回)と町田一越(95回)が三期目を務めることとなりました。二期八年の任期を全うした加藤公則氏(90回)からも最後の会計監査報告がありました。懇親会では青山同窓会から石田瑞穂副会長(67回)からもご参加いただき、和やかに楽しい時間を過ごすことができました。尚、午前中の合同稽古は、猛暑の中現役高校生を始め会員及び剣友各位三十六名の参加で元氣溢れる稽古が行われました。

一月二日、平成二十年の新年会が新潟市のイタリア軒にて開催されました。村島会長をはじめ三十一名の会員が集い、和やかに新年をお祝いしました。永年新年会恒例となっていた白山会館から場所を変えての開催でしたが、女性会員から四名参加もあり、いつも以上に活氣溢れる会となりました。冒頭村島滋会長(52回)の挨拶では、平成十九年の現役・OBの活躍を振り返ると、戦前から続く当会の交流会としての意義深さを改めて確認できる、と、お話しがありました。平成十九年四月に赴任された母校監督に就任された望月雅之先生のご挨拶と剣道部の近況報告では、後輩の活躍に頼もしさど期待を感じました。関崎睦男先輩(45回)による乾杯の音頭で開宴し、二年ぶりに再開したアトラクション・ビンゴ大会「新年初当たり」で豪華景品が参加者全員に振る舞われま



した。宗村信明氏(88回)の応援指導で母校発展の願いを込めた「丈夫」を合唱した後、吉田副会長(79回)による一本締めで盛会のうちに終了しました。三・母校剣道部とOBの合同稽古会 毎月一回、新潟高校剣道場にて現役生・OBを始め一般の参加で実施しております。十九年度は四月二十一日、五月二十六日、六月十六日、七月二十一日、八月十一日、九月十五日、十月二十日、十二月十五日、一月二日、二月九日、三月十五日に実施致しました。特に盛夏の八月十一日は三十六名、新年一月二日は三十八名の参加があり、道



場内には活気が溢れ、充実した稽古が行われました。

四、会員の活躍

市民体育祭剣道大会（十月七日）に青山剣友会チーム参戦三位入賞

第五十六回新潟県剣道大会（九月三十日）で、荻莊則幸副会長（83回）が個人戦五十歳代の部に出場し準優勝

第四十八回新潟県実業団剣道大会（十一月二十三日）で、荻莊則幸会長が個人戦五十歳代の部に出場し見事優勝！荻莊誠氏（87回）も同四十歳代の部三位入賞

八年間にわたり母校剣道部の顧問を務めた新潟高校教諭の渡辺治夫氏（88回）が平成二十年四月異動で高田南城高校の教頭に昇任

### 朝練

#### 青山ソフトテニスクラブ

小菅 洋司（94回）

ソフトテニスクラブのOB会である青山クラブは、会員同士の親睦と現役生の応援を旨として日夜活動を続けています。全

体行事は毎年八月十四日に行われるOB戦と懇親会ですが、その陰にひっそりと隠れて地道な活動も行われています。それが、参加者「多くて」四名、まだ肌寒い四月の朝七時から始まる朝練習です。練習といっても現役が練習を始めるまでの二時間弱、乱打を少々して二三試合をするってだけです・・・

公式試合は、六月に行われる市民戦、九月の職域クラブ対抗戦、その他各種大会に参加しています。現在の悩みの種は人手不足。仕事や子育て等々の理由により都合が合わず、昨年の団体戦はすべて参加することが出来ませんでした。夢はでっかく(?)、大会には青山クラブA、Bつて

感じて二チーム参加、六部ある新潟市のリーグでせめて三部くらいに昇格すること・・・なのですが、不参加等の理由により自動降格して現在六部。最底辺でのたうち回る青山クラブは随時仲間を募集中です。皆さんもたまには母校を訪れてみてはいかがでしょうか？無理なく楽しんでみましょう。

四月から十月くらいまでの日曜日の晴れた朝（雨なら即お休み）、母校のコートでお会いしましょう。

### 十九年度

#### 青山柔道部OB会総会

— 参議院議員佐藤信秋氏を迎えて —

立川 克雄（72回）



の活動状況の報告の後、結城俊郎先輩の音頭で声高らかに乾杯、懇親会が始まりました。開会から一時間、青山同窓会諸先輩の応援を得てこの夏の参議院選挙で見事当選した、74回の佐藤信秋氏（東京青山柔道部OB会長）が、当日の名古屋、翌日の東京の公務多忙な中、間隙を縫って急遽この会に参加のため航路、駆けつけてくれました。拍手の中、挨拶、後輩に対し、激励を戴きました。

後は例年のごとく、卒業年50回の隔たりも全くなく楽しく飲み、語りました。

その後は、これも例によって学校町の「佐和村」で再び氣勢を上げ来年の再会を約束しました。

恒例の青山柔道部OB会総会は、平成十九年十一月十七日（土）六時、最近定着している東堀通りウイズビル「金城閣」を会場に開催されました。事業・会計報告、母校加藤監督から

### 寄稿

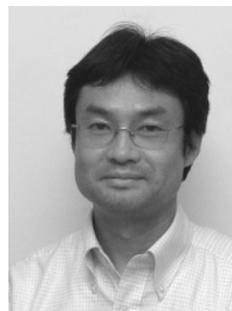
#### 卓越した研究業績をあげている

#### 気鋭の若手科学者

#### 京都大学科学研究所准教授

東 正樹 さん（94回）

旧職員 赤井田 秀光



飛躍的な発展が期待されるリサーチフロント（先端研究）とそれらの研究に携わる世界をリードする研究者を表彰するものである。

さる三月初めに、横浜で開かれた山中伸弥京大教授の細胞の研究経緯を聴講した折に、高校で授業を担当した、東正樹君の活躍を知り、感銘し真に嬉しいかぎりであった。

彼は、昭和六十一年に本校を卒業、京都大学理学部に進学し物理学を専攻。ちょうど高温超伝導フェーバーの時期で、大学院は化学を専攻し、銅酸化物の探索が世界中で進められている。東正樹准教授は、科学技術振興機構「さきがけ研究」の助成を得て、磁性と強誘電性が共存する「マルチフェロイクス」と呼ばれる物質の研究により新しい強磁性強誘電体をはじめとするいくつかの新物質を発見した。この一連の研究に対して Thomson Scientific Research Front Award 2007を受賞。これは、今後

電気蓄えるコンデンサーの性質を持つ強誘電体とハードディスクなどの磁気記録に用いられる磁性体は様々な利用され、我々の生活を支えている。次世代のデバイス材料として、これらの性質を併せ持つ物質の探索が世界中で進められている。東正樹准教授は、科学技術振興機構「さきがけ研究」の助成を得て、磁性と強誘電性が共存する「マルチフェロイクス」と呼ばれる物質の研究により新しい強磁性強誘電体をはじめとするいくつかの新物質を発見した。この一連の研究に対して Thomson Scientific Research Front Award 2007を受賞。これは、今後さらに微小な磁石（スピン）が梯子状に並んだ「スピン梯子」のモデル物質の発見に、学術界をリードする。この研究に、一九九七年には井上研究奨励賞を受賞。

化学研究所では、遷移金属酸化物を舞台に高压合成法を武器として新物質を合成。「スピン梯子」化合物等、特に重要な物質は内外の物理研究者に試料を提供。さらに放射光を用い、数々の高压安定相の結晶を育成。特に「オキシクロライド」と呼ばれる高温超電導体の結晶育成に成功したことで、超伝導メカニズムの研究が飛躍的に進み、内外の共同研究者によって、*Nature Science* 等に多数の論文が掲載される。この「高压下の単結晶育成」研究に対し二〇〇五年若手科学者賞(文部科学大臣表彰を受賞している。彼は「試行錯誤しながら少しでも真理に近づいたとき、新しい物質を合成したとき、思ってもみなかった外国の研究者の注目を集めたとき、非常に大きい達成感を得る」と語っている。「思わぬ発見をする才能」、「運良く発見したもの」のことを、セレンディピティ(Serendipity)というが、これは、単なる「ラッキー」とは違う。細菌学者パストゥールが語るように、「周到に用意する者だけが、偶然を生かすことができる」のである。地道でひたむきな努力と、熱意、そして鋭い観察力、洞察力なくして偶然からの発見はなし得ないであ

ろう。本校の成績上位者は医学部志向が強いが、昭和六十一年入試はなぜか東大志望者が多く(十七名合格)、彼に東大を薦めたが、歯牙にもかけなかったと記憶している。学究肌の彼には、日本の理系ノーベル賞受賞者九人のうち湯川、福井両博士ら五人を輩出している京大の自由な学風・独創性というイメージが決定的なものとなっていたのではないかと推測している。

高校時代の印象は、強健で悠然とし、穏やかで誠実な言動、鋭敏な頭脳と才智を温かい微笑の陰に秘して周囲から一目おかれる存在であった。部活は三年間サッカー部で活躍。まさに文武両道を成し遂げている。大学では、ヨット同好会に入り、琵琶湖でディンギーレースを楽しんだと聞いている。

京都ご出身の才媛と結婚、小二の長男、五歳の二男に恵まれている。六月には三番目が誕生予定の慶事。ご両親は新湯にご健在。

現在は、これまでの研究に加え、環境に有害な鉛を含まない強誘電・圧電材料等の新しい機能性材料の探索・開発に挑んでいる。優れた研究成果を生み出し、科学界へ貢献していくものと信じている。



「弘知法印御伝記」を稽古する筆者(写真右)

## 越後猿八座を立ち上げる (八月末に佐渡で試演会)

上原 誠己(鶴澤 浅造)(77回)

私が友人の西橋健さん(佐渡の文弥人形の遣い手)や座員の皆さんと一緒に現在稽古を重ね、来年六月に三百年ぶりに復活しようとしている幻の古浄瑠璃の存在を知ったのは、昨年(平成十九年)のお正月のことでした。恩師で「日本の世界的研究者」(司馬遼太郎先生の著書より)ドナルド・キーン先生と初詣から帰宅した後、「浅造は古浄瑠璃に興味があるようだ、早稲田の鳥越文蔵さんが昭和三十八年にケンブリッジ大

学で教えていた時、大英博物館で発見した江戸時代初期の本があるが、一度調べてみてはどうですか」とお話し下さいました。これが正に「越後國・柏崎・弘知法印御伝記(こうちほういんごでんき)」で、寺泊・西生寺の実在の高僧で即身仏としての有名な弘智法印の一代記だったのです。内容は荒唐無稽な部分もあるが、素朴で民衆受けする娯楽性やエネルギーに充ち、興行的にも間違いなく成功したと考えられます。

古浄瑠璃とは義大夫節以前の浄瑠璃(語りと三味線により物語を展開する音楽)ですから、文学性・音楽性において完成度は低いのですが、内容の面白さは勿論のこと、ご当地物としてそして文化的にも歴史的にも復活する価値は非常に高いと思いました。

三月に佐渡で鳥越先生にお目にかかった時に御相談すると諸手を挙げて賛成して下さいました。心配は、この物語を作曲し三

味線で弾き語りするのは私として、十名は必要な人形の遣い手が果たして集まるかどうかでした。しかし今年の一月に西橋さんと越後猿八座を立上げ稽古を始めると、直ぐに十五名程になり、毎月の稽古は順調に滑り出しました。座員には青山の先輩がお二人おられ心強い限りです。今後は八月末の佐渡での試演会を皮切りに、経験を積むために何回も実演を繰り返し実力を養い、皆様に心から喜んで頂ける舞台を創り上げたいと思います。

### 追悼

## 前青山同窓会幹事長 第73回生小崎弘一君を偲ぶ

鶴木 秀司(73回)



本年五月四日、小崎弘一君が設計事務所ですら突然天に逝ってしまいました。余りにも早く惜しまれる旅立ちだった。

物静かで、定見を持ち、面倒見がよく、人を大切に、家族を、新湯を、山を、ジャズを、お酒を愛した。決して周りの人には示唆はすれども声を荒立てない、優秀、有能な人物であった。現に私の四十年間余りのお付き合いで彼の怒り声に出会うこともなかった。

(ジャズ)

新湯高校軽音楽部ジョリーチヤップスで彼がギターを弾いたのがジャズへの入り口であった。ソニーローリング・ウェスモンゴメリー・アニータオデイが特に好きであった。高校2年時、部仲間井口正男とのジャズ談義の中でソニーローリングズについて語っている。その一端を披露させていただきます。

「とにかく、あの逞しさに惹かれる。ボディビルで鍛えたゴツイ体から飛び出すモルルス信号的なソロや歌うようなメロディー。聴けば聴くほど好きになる。」

(山)

四十代初めより菅名岳を皮切りに登山を始め、みるみる脚力を上げ毎週のように山を愛し



小嶋さん 写真中央 (一番右が筆者)

た。札幌在住、同期の八幡正春君の案内で北海道の山々へ夫婦ともども十数年間同行した。彼は本当に写真が好きで特に山野の花を撮りまくった。スライド会も多くの人が見せてもらったはず。

あの大い体を小さく屈め、接写している姿が今でも目に浮かぶ。

〔酒〕  
本当に、本当に好きでした。ゆっくり時間をかけ底無しのように楽しんでましたね!

〔街づくり〕  
彼は本当に新潟を愛していた。市民参加型の街づくりを提唱し、実践し、多くの有能で、熱意のある、彼のように新潟の街づくりが心から好きな人たちが生み育てたことだと思います。彼の功績は、沢山あり、

大橋信雄先生は昨年十二月七日に亡くなられた。行年八三歳。急性の肺気腫を患われた。先生



大橋先生 前列左から 4 番目

に必ずや根をはります。新潟にとつて君は、本当に大人な人でした。本当にありがとう。今までのように我々の背中後ろから見守つて下さい。たまには皆で酒を飲みませんか。

〔台掌〕  
坂井 丈夫 (60回)

は東京大学文学部を卒業後、昭和二年四月から二七年三月迄新潟高校教諭として国語、社会をご担当され、昭和二七年三月、私たち六〇回生の卒業とともに東京都立武蔵野高等学校教諭に転じられ、定時制課程をご担当されるとともに、東京大学大学院にご入学され勉強を続けられた。私は新潟高校での最後の学級担任であられた三年G組の生徒である。先生は闊達なお人柄で親しみやすく、生徒にとつては「何でも相談に行ける良い兄」というべき方であった。私が高校を卒業して大学生になった二七年当時は米ソの世界的な軍事対立を背景に、わが国ではその代理戦争とも言ふべき価値観の二極分化・対立が社会全般に広がりメーデー事件等の騒乱が勃発、大学内でも左右両派の

### 大橋信夫先生を悼む

又多分野に渡り把握仕切れませぬ。残された者には君にはやつて頂かねばならないことがまだまだあったのと思いは大きいと思います。でも、君の魂、志は君の家族、君の育てた若者の一人一人の心に引き継がれ、新潟



## 東京大学音楽部管弦楽団 サマーコンサート 2008 新潟公演

榎本 亜沙斐 (114回)

私は、現在、東京大学音楽部管弦楽団(通称東大オーケストラ)というオーケストラに所属しております。当団は1920年に発足以来の歴史を持ち、東京大学の学生によって構成される大学公認のオーケストラです。

毎年、「サマーコンサートツアー」と称しまして、夏休みに日本各地の都市を回る演奏旅行を行っております。今年は、同じく114回卒業の高田省吾と私が所属していることもあり、新潟公演が実現する運びとなりました。

学生オーケストラではありますが、プロの指導者をお招きして真剣に音楽に取り組んでおりますので、私達の演奏を一人でも多くのお客様に楽しんでいただくことが団員一同の願いであります。ぜひ、たくさんのお客様にご来場いただきたいのですが、青山同窓会の方々のお力添えをいただきたく、お願い申し上げます。

開演時間 : 8月4日(月) 午後6時30分  
会場 : 新潟市民芸術文化会館 (りゅーとぴあ)

入場料 : 1,000円 全席自由  
演奏曲目 : メンデルスゾーン交響曲第3番 スコットランド他

お問い合わせ: TEL 080-5430-7923 (榎本)  
E-mail niigatagaimu08@yahoo.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学学生部学生課内

※お申し込みが必要です。お問い合わせください。



同窓の本

「水と土の文化王国にいがた」  
——日本海政令市の進路——  
新潟日報事業社 出版一六八〇円(税込)



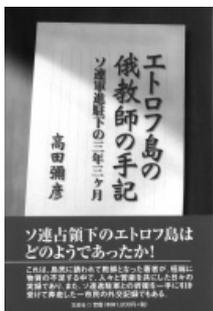
と金を出し合い、水と闘い、水を利用し、いかに豊かな住み良い地にして来たか、を語った新潟に住む事が誇りに思える著作です。しかし、第五章になりますと突然「あなたも首長になろう」と変化し、もしかすると一番この章を言いたかったのか？と思える章建てで、読む者をあきさせません。ぜひ一読願います。

75期の篠田昭新潟市長から新潟高校と青山同窓会に著作の寄贈を頂きましたのでご案内いたします。

内容は、我々の先祖が新潟という地に暮すに当たり知恵と汗

「エトロフ島の  
俄教師の手記」

(文芸社刊)



41期の高田彌彦さんより同窓会に「エトロフ島の俄教師の手記」(文芸社刊)をいただきました。

著作は次のように紹介されている。「ソ連占領下のエトロフ島はどのようであったか！これは、島民に請われて教師となつた著者が、極端に物資の不足する中で、人々と苦楽を共にした日々の実録であり、また、ソ連進駐軍との折衝を一手に引き受けて奔走した一市民の外交記録でもある。」

「青山68会展 SPARTVS」

開催のお知らせ

五回目を迎える68回(昭和三十五年卒業)の同期生による作品展を開催します。同窓生皆様のご来場をお待ちしております。

(会場)

新潟県民会館 一F展示コーナー

(日程)

平成二十年九月二十四日(水)～二十八日(日)

(主な出展作品)

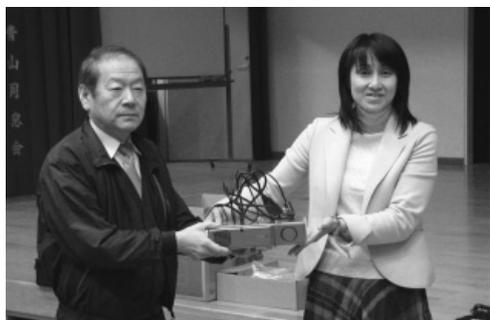
68回同期生による絵画・写真・書道・陶芸・工芸・手芸・模型などの作品を展示

(幹事)

若松昌弘

なお、「青山68会のホームページ」をご覧ください。  
(<http://www.kitamuras.co.jp/aoyama68>)

プロジェクターを寄贈



平成二十年一月、第71回三年六組有志様(代表 野沢正樹様)より、新潟高校へ視聴覚室用カシオ小型プロジェクターの寄贈をいただきました。老朽化が進んだ大型プロジェクターをカバールし、目下、鮮明な画像で生徒に対する教育活動に役立たせていただいております。まことにありがとうございます。

ここに報告申し上げます。ここに、深く御礼申し上げます。(校内幹事 横堀真弓 91回)

編集後記

山岳部  
現役・OB 交流会開催

恒例の現役・OB 交流会を下記にて開催しますので、ご参加をお待ちしております。

日時：平成 20 年 9 月 6 日(土) 7 日(日)  
場所：巻機山の家

お問い合わせは石沢まで

# 丈夫魂ここにあり

## <平成 20 年度新潟高等学校県総体結果一覧表>

1 陸上競技	男子 棒高跳	第 1 位 高橋 理寛 (北信越大会出場)
	4 × 1 0 0 m R	第 5 位 千代・柳沼・木戸・高橋 (北信越大会出場)
	1 1 0 m H	第 7 位 清水 嶺
	女子 4 × 4 0 0 m R	第 8 位 佐藤萌・佐藤悠・吉俣・小林
2 バスケットボール	男子 ベスト 1 6	女子 ベスト 1 6
3 サッカー	2 回戦敗退	
4 ラグビー	ベスト 4 (北信越大会出場)	
5 バレーボール	男子 ベスト 1 6	女子 初戦敗退
6 テニス	男子 団体ベスト 1 6	女子 団体 2 回戦敗退
7 ソフトテニス	男子 ベスト 1 6	女子 2 回戦敗退
8 卓球	男子 団体ベスト 1 6	女子 団体ベスト 1 6 個人 第 1 3 位 橋本 歩美
9 バドミントン	男子 団体 2 回戦敗退	女子 団体初戦敗退
1 0 柔道	男子 団体予選リーグ	第 2 位
1 1 剣道	男子 団体ベスト 1 6	女子 団体ベスト 1 2
1 2 空手道	男子 団体組手	2 回戦敗退
1 3 弓道	男子 第 4 位	女子 予選リーグ敗退
1 4 フェンシング	男子 学校対抗	第 2 位
	個人 フルーレ	第 5 位 藤井 雄太
	エペ	第 3 位 五十嵐 千寛
	サーブル	第 5 位 渡辺 航
	女子 学校対抗	第 6 位 堀 裕也
	個人 フルーレ	第 3 位 渡辺 宗一朗
	エペ	第 6 位 斎藤 憲介
	サーブル	第 1 位 (北信越・全国大会出場)
		第 1 位 笠原 未来 (北信越・全国大会出場)
		第 3 位 藤石 愛美 (北信越大会出場)
		第 4 位 小黒 麻美
		第 2 位 宮川 香奈恵
		第 3 位 藤石 愛美
		第 2 位 菅原 美穂
1 5 ボート	男子 総合	第 3 位
	シングルスカル	第 2 位 勝木 将人 (北信越大会出場)
	舵手付クォドルプル	第 3 位 本間・小林・長谷川・畑山・石山 (北信越大会出場)
	女子 総合	第 3 位
	シングルスカル	第 2 位 山本 美優 (北信越大会出場)
	ダブルスカル	第 1 位 岩橋・石川 (北信越・全国大会出場)
1 6 山岳	優秀校	(北信越大会出場)
1 7 水泳	6 月 2 0 日 ~ 6 月 2 2 日 開催予定	
1 8 野球	7 月 1 1 日 ~ 開催予定	



## 大学入試結果

3月14日、全日制課程391名の生徒が無事卒業していきました。卒業式当日は天候に恵まれ、長谷川会長の前で応援団長真島徹也君が元気良く宣誓し、卒業生が同窓会に入会しました。

さて、今年是新課程入試の3年目になります。1月に実施された大学入試センター試験は昨年度難化した反動で易化し、総合平均点もアップしました。そういった中で新潟高校生は健闘し、次に挙げるような立派な成績を残しました。

<全体的な結果>

- ① 4年連続して国公立大合格者が200名を超え、進学率も70%を超えた。
- ② 新潟大の合格数がこの3年間で、73 → 69 → 84と推移し、大幅に増えました。

①については、学年団が一致団結して生徒指導・学習指導に当たり、生徒がこれに答え、しっかり学習し受験した結果と思われます。

進学率は昨年度より2.0ポイントアップし75.2%となりました。浪人する生徒も3年続けて100名を割り込みました。少子化の影響で合格し易くなったとはいえ、同じ10クラス400名規模であった2000年の卒業生が進学率52.6%、浪人生198人から考えると隔世の感があります。

②新潟大の増加は主に後期入試によるもので、前期で県外の難関大学にチャレンジし、後期で新潟大を受験するというスタイルの生徒が多かったようです。その結果、東北大が昨年より合格が6人増加し28名に達し、現役30名合格が見えてきました。今年の在校生も例年以上に東北大を希望する生徒が多く、合格が30名を突破するのは確実だと思えます。

さらに、より高い目標として、東大を受験する生徒が今より増えてくれば、言うことはありません。

続いて新潟高校生に希望の多い医学部医学科ですが、こちらは少子化の影響も受けず全国的に厳しい入試が続いています。本校の3年間の国公立大医学科の合格数は15 → 13 → 10で辛うじて二桁合格は維持しました。地元新潟大医学科は7 → 3 → 5と伸び悩む半面、昨年は東大理Ⅲ、京大医学科、今年は東北大医学科、大阪大医学科へ1人ずつ進学するなど、新潟大にこだわらない生徒の幅広い進路選択が見えてきます。

<その他>

今年度は学級増となり、クラス数が9 → 10となりました。内訳は普通科8、理数科2です。なお、今年より全県1学区となり、新潟県全域から受験

できるようになりました

最後にいかなる時代、いかなる生徒であろうとも学年団及び各教科と連携し、生徒の持てる力を最大限に伸ばす進路指導をしていきたいと考えています。



2008 主な大学の現役合格者数 (延べ数)

主な国公立大学合格者数			
大学名	'06	'07	'08
北海道大	15	15	10
帯広畜産大	1	2	
旭川医科大	1	5	
東北大	24	22	28
秋田大	4	3	1
山形大	3		2
筑波大	13	5	4
埼玉大	4	4	1
千葉大	13	8	7
東京大	9	10	6
東京外語大	3	1	5
東京芸術大		1	
東京学芸大	9	2	8
東京工業大	2	4	3
東京農工大	1	1	3
お茶女子大	6	2	
電気通信大			1
一橋大	3	1	2
横浜国立大	8	7	4
新潟大	73	69	84
長岡技科大			1
富山大	1	2	3
金沢大	7	5	9
信州大	3		1
静岡大	1	1	
名古屋大	1	1	
京大	5	6	4
大阪大	2	5	1
神戸大	1	3	1
九州大	1	1	
首都大東京	3	4	4
横浜市立大	1	2	2
その他	15	14	18
合計	233	206	213
合格率	49.1	44.2	47.0

主な私立大学合格者数			
大学名	'06	'07	'08
早稲田大	41	32	34
慶応大	18	10	15
中央大	36	30	36
明治大	35	36	48
立教大	20	22	23
法政大	21	17	29
日本大	6	7	15
上智大	5	5	5
青山学院大	9	12	12
学習院大	7	4	6
北里大	6	4	5
国学院大	4	6	2
I C U	2		4
駒沢大	9	1	3
自治医科大	1		1
成蹊大	4	2	2
成城大	3	4	4
専修大	9	2	3
津田塾大	11	6	3
東京農業大	5	5	12
東京理科大	21	20	27
東京薬科大	3	4	1
東京女子大	6	10	5
東邦大学	3	1	2
日本女子大	4	9	2
明治学院大	6	7	8
神奈川大	6	3	2
東海大	5	4	4
文教大	7	8	7
新潟薬科大	17	15	5
同志社大	6	4	4
立命館大	12	9	9
その他	96	63	79
合計	444	362	417
合格率	45.7	41.8	40.2

事務局より

母校の図書館に  
同窓生の皆さんのご著作を寄贈してください  
新潟高校図書館部

新潟高校の図書館には同窓生の著作本を紹介するコーナーがあります。この度、このコーナーをさらに充実させて、現役高校生に諸先輩のすばらしい研究成果を紹介し、後に続いてもらおうと考えました。

そこで同窓生の皆さんのご著作を寄贈していただけませんか。高校生には難しい専門的な学術書でも構いません。むしろアカデミックな向学心を刺激するので大歓迎です。また学術書でなくてもご寄贈を歓迎いたします。これらのご著作を通して、各界で活躍される同窓生のお姿を知ることが現役高校生にとつてはたいへん有意義なことだと思われます。  
寄贈していただける方は、お手数ですが、新潟高校図書館宛に郵送されるか、直接お持ちになるかしてください。ご著作は新潟高校図書館で整理し、入れ替えをしながら紹介していきたいと考えております。

職員員の異動

平成二十年四月

〈退職 転出(転出先)〉

校長 小林 崔(退職)  
教頭 猪又 斉  
教頭 小林 勝也  
(久比岐 教頭)

〈転入(前所属)〉

校長 大滝 祐幸(教育次長)  
副校長 猪又 斉  
教頭 石澤 聡(三条東 教頭)  
教諭 斎藤 丈(万代)

教諭 五十嵐 達郎(巻)

湊元 弘昭(新潟江南)

中戸 義文(安塚 教頭)

渡部 多恵子(新発田南)

五十嵐 公(万代)

竹内 泰雄(新潟商業)

渡邊 治夫  
(高田南城 教頭)

齋藤 恭広(燕中等)

五十嵐 茂夫(退職)

高橋 陽介(羽茂)

坂井 静雄(新発田南)

渡邊 敏行(万代)

羽豆 拓夫(阿賀黎明)

井之川 豊(燕中等)

実習助手 佐藤 博美(白根)

常勤講師 笠原 崇弘  
(新採用 新潟聾)

常勤(三ヶ月)乙川 明美(退職)

非常勤講師 野口 明夫(退職)

長谷川 貴久  
(退職)

二挺木 貴幸  
(退職)

事務 主任 高橋 真士  
(新潟県税部)

青山同窓会費納入についてのお願い  
会費を納入していただきますと、「青山同窓会報」を毎月お届けいたします。申し訳ありませんが、納入のない方には「会報」をお送りすることができなくなってしまうます。是非、お忘れなくお振り込みください。ようお願い申し上げます。  
なお、会費は年会費(四月一日〜翌年三月三十一日)となっております。

年会費 一口 一、〇〇〇円

できるだけ二口以上でお願いいたします。

振込先：郵便振替口座

全日制 00650074455

通信制 00530174207 青山同窓会

同期会を開催される期の幹事の方へお願い

同期会の開催に合わせて、是非、会費納入者の拡大にご協力下さい。早めに、開催の期日を連絡頂ければ、事務局で、同窓会報・会費納入のお願い・振込用紙としてA4サイズが入る角2の同窓会封筒を人数分用意しておきます。よろしくお願ひします。

会報へ寄稿される方へ、原稿字数のお願い

原稿の字数は八〇〇字から一〇〇〇字の間で書いて下さるようお願いいたします。一〇〇〇字以上ですと紙面の関係で載せられなくなる場合がありますのでよろしくお願ひします。

表紙題字：小川 和恵(101回) イラスト：池主 憲夫(68回)



2008 青陵祭

平成 19 年度  
青山同窓会会費納入者

(H 1 9 . 1 0 ~ H 2 0 . 3 まで納入のもの)

“1 口 1,000 円。なるべく 2 口以上でお願いします。”

振込先：郵便振替口座

全日制 00650-7-4455 青山同窓会

通信制 00530-1-74207

青山通教部会

全日制

- 41 回 S 9 年 今成隼次
- 43 回 S 11 年 阿坂英夫
- 44 回 S 12 年 近藤嘉男
- 仁多見一彦
- 宮沢正彦
- 46 回 S 14 年 原泰三
- 47 回 S 15 年 菅井隆一
- 杉山弘治
- 48 回 S 16 年 吉澤宏英
- 49 回 S 17 年 外山芳夫
- 細野耕爾
- 51 回 S 19 年 金巻保男
- 藤島武雄
- 52 回 S 20 年 星野孝
- 53 回 S 20 年 大滝侃市
- 小野幸雄
- 小林松郎
- 中島常雄
- 広野究
- 福島鏝一
- 福原和夫
- 55 回 S 22 年 高橋弘
- 田村一郎
- 56 回 S 23 年 井上幸衛
- 高見久義
- 島山茂
- 渡部義一
- 58 回 S 25 年 永井克孝
- 早沢良雄
- 59 回 S 26 年

- 江口昌男
- 河合徳壽
- 河野誠
- 諸橋丈夫
- 60 回 S 27 年 田部幸夫
- 長谷川信夫
- 本間一浩
- 山崎良一
- 61 回 S 28 年 小池弘
- 助川孝雄
- 丸山通夫
- 62 回 S 29 年 小池健治
- 斉藤文志郎
- 柴田仁
- 新保利博
- 鈴木勉
- 立川国臣
- 宮本輝夫
- 結城俊郎
- 渡辺順司
- 63 回 S 30 年 白倉至
- 萩野一英
- 羽入義郎
- 松岡京子
- 村田正
- 油本暢勇
- 64 回 S 31 年 青野啓
- 川井文夫
- 近藤恭一
- 近藤清市
- 志賀英雄
- 中村輝久
- 西野貢司
- 早川周作
- 65 回 S 32 年 相田稔
- 池田昌彦
- 加藤純一
- 小林亘

- 早福澄子
- 波多野庄英
- 66 回 S 33 年 大野康則
- 合田春美
- 福山忠利
- 藤田佐津紀
- 八木純
- 67 回 S 34 年 大高道夫
- 小野勝義
- 片山忠一
- 児島毅
- 西章
- 松井啓康
- 68 回 S 35 年 小田公幸
- 小島專吉
- 佐々木賢介
- 佐藤薫
- 滝澤辰雄
- 渡辺泰彦
- 69 回 S 36 年 青木利祐
- 伊海田英夫
- 小林勲
- 渋谷澄夫
- 栃倉浩
- 山田栄
- 山田建男
- 70 回 S 37 年 石井鎌二
- 小沢欣治
- 小幡清司
- 金子正史
- 西田牧衛
- 71 回 S 38 年 小川義一
- 渋谷良二
- 高橋則子
- 山田喜英
- 渡辺尚武
- 72 回 S 39 年

- 追手 巍
- 菅又 滋
- 原 絢子
- 三国正昭
- 73 回 S 40 年 佐野修
- 関 伶子
- 高崎進
- 西正与
- 樋熊節子
- 74 回 S 41 年 風間悦男
- 笹川久男
- 福田善規
- 75 回 S 42 年 安西徹郎
- 大野敏雄
- 岡田政文
- 小原克己
- 木村洋
- 鈴木広志
- 南博
- 吉川恵次
- 76 回 S 43 年 相田光治
- 尾張明美
- 棚橋定衛
- 古川恒一
- 渡辺薫
- 77 回 S 44 年 猪股律子
- 上原誠己
- 中矢明
- 藤崎克己
- 78 回 S 45 年 肥田博子
- 松田由紀夫
- 79 回 S 46 年 枝並和男
- 片岡道夫
- 高坂浩子
- 渋谷昇
- 80 回 S 47 年 池田博文
- 加藤新一
- 佐藤文彦
- 竹本泰子
- 田巻明恒
- 本間英知
- 山井健介
- 81 回 S 48 年

- 武田正之
- 82 回 S 49 年 小亦斉
- 成田昌稔
- 83 回 S 50 年 相田八郎
- 青木忠信
- 窪田久
- 中村昌子
- 山作房彦
- 84 回 S 51 年 大須賀郷子
- 加藤雅一
- 鈴木紀夫
- 85 回 S 52 年 須田昌司
- 86 回 S 53 年 阿保聖子
- 鈴木正孝
- 高橋聡子
- 田辺慶直
- 本田佐和子
- 87 回 S 54 年 小野和宏
- Saltzgeber 純子
- 宮田佳則
- 88 回 S 55 年 君伸一郎
- 成田小夜子
- 90 回 S 57 年 横井義彦
- 91 回 S 58 年 大津俊哉
- 92 回 S 59 年 小見毅
- 93 回 S 60 年 丸山由喜
- 95 回 S 62 年 梶原真喜子
- 田中真帆
- 97 回 H 1 年 栗原洋志
- 101 回 H 5 年 小林あかね
- 鈴木由貴子
- 105 回 H 9 年 遠藤尚史
- 109 回 H 13 年 遠藤公太
- 113 回 H 17 年 川村望

- 115 回 H 19 年 郷 慎久朗
- 通信制
- 2 回 S 35 年 青柳勲
- 3 回 S 36 年 川端欽吾
- 5 回 S 38 年 菅原カツ
- 6 回 S 39 年 養田太一郎
- 7 回 S 40 年 内山紀子
- 9 回 S 42 年 角田清宣
- 13 回 S 46 年 青山邦子
- 中山雅之
- 曳田芳江
- 18 回 S 51 年 小林和昭
- 22 回 S 55 年 藤田栄六
- 藤田キミエ
- 26 回 S 59 年 猪倉フミ
- 29 回 S 62 年 小野道子
- 竹内正朋
- 30 回 S 63 年 佐藤英明
- 山田光英
- 31 回 H 1 年 石井幸代
- 滝澤公晴
- 38 回 H 8 年 柿崎フミ子
- 三須猛
- 40 回 H 10 年 丸山信夫

